

保健体育科学習指導案

日 時：令和5年12月 日（ ） 校時
 対 象：中学部保健体育 グループ 名
 場 所：体育館
 授業者：(T1) (T2) (T3)

1 題材名 「チームで対戦！ふうせんバレー」

2 生徒の実態

中学部〇年生の保健体育科の授業は、2つのグループに分かれて週3時間実施している。本学習グループは〇名で構成されている。障がいの程度、身体能力に個人差はあるが、いずれの生徒も一斉指示を聞いたり周りの動きに合わせてたりして、様々な運動に取り組むことができている。

生徒個々の本題材における実態は次のとおりである。

A	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：35回 ハンドボール投げ：13m ・2人組の風船バレーパスでは、風船を落とさないように足を動かしたり友達の方向を意識して返球したりすることができる。 ・活動内容やルールについて、示範や文字の提示など視覚支援があると理解できることが多い。理解したルールは忠実に守ることができる。 ・友達に積極的に話しかけることは少ないが、話す内容やテーマが決まっているときは自分から話しかけることができる。
B	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：43回 ハンドボール投げ：14m ・風船の破裂音に対する恐怖心があるが、勝負に勝ちたい思いが勝り、意欲的に風船バレーに参加できる。2人組の風船バレーパスでは、相手を意識して返球することができる。 ・活動内容やルールについて、示範を複数回すると理解できることが多い。「手のひら上向き、下から上」など、ポイントを端的に伝ええると、より意識して活動することができる。 ・話す内容やテーマが決まっていると、自分の意見を伝えることができる。失敗を受け入れることが苦手で独り言が増える場面があるが、自分で気持ちを落ち着かせることができる。
C	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：36回 ハンドボール投げ：21m ・2人組の風船バレーパスでは、風船の落下点を予測して動いたり相手の方向を意識して返球したりすることができる。 ・活動内容やルールについて、口頭指示で動くことができるが、示範や文字の提示があるとより自信をもって活動することができる。 ・話す内容に自信がないときは消極的な態度が見られるが、得意分野や自信のある内容については意欲的に話し合いを進めることができる。
D	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：35回 ハンドボール投げ：13m ・風船の破裂音に対する恐怖心があり、活動初期は耳栓を使用していた。徐々に風船に慣れ、「サーブを成功させよう」から耳栓がなくても活動に参加できるようになった。 ・活動内容やルールについて、口頭指示で動くことができるが、示範や文字の提示があるとより自信をもって活動することができる。 ・思ったことをストレートに言葉にすることがあるが、友達の良いところにもよく気付くことができる。話し合いでは相手の意見を聞いたり自分の意見を伝えたりすることができる。
E	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：36回 ハンドボール投げ：15m ・2人組の風船バレーパスでは、足を動かして風船を追いかけたり、距離に応じて強弱をつけて返球をしたりできる。風船を最後まで追いかけ、スライディングするなど意欲的に活動できる。 ・活動内容やルールについて、示範を複数回したり文字で提示したりすることで理解することができる。自信のないときや初めての活動は動きがゆっくりになることが多い。 ・話し合いにおいて、教員の言葉かけや友達からの働きかけがあると、自分の意見を友達に伝えることができる。発言まで少し時間を要することもある。

F	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：34回 ハンドボール投げ：9.7m ・2人組の風船バレーパスでは、風船が落ちる直前まで諦めずに追いかけて返球することができる。 ・活動内容やルールについて、示範を複数回したり、本人が実施しているときに言葉かけで伝えたりすることで意識することができる。繰り返し実践することで理解が深まる。 ・自分の意見を話し合いで伝えることは苦手であるが、友達と関わることは好きで、相づちをうったり友達の意見に賛同したりして話し合いに参加することができる。
G	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：34回 ハンドボール投げ：14m ・2人組の風船バレーパスでは、正面からきた風船に対し積極的に手を伸ばして返球することができる。 ・活動内容やルールについて、示範や文字の提示で伝えた上で個別の言葉かけを行い、繰り返し実践することで少しずつ理解することができる。 ・「いいね」「そうですね」など、友達の意見に賛同することで話し合いに参加することができる。振り返り場面では意欲的に友達への称賛の拍手をすることができる。
H	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：26回 ハンドボール投げ：6.2m ・2人組の風船バレーパスでは、正面にきた風船を返球することができる。事前に風船に注目する言葉かけをすると、より返球率が上がる。 ・活動内容やルールについて、示範で伝えた上で実践の中でも繰り返し正しい方法やルールを言葉かけや示範、身体的ガイダンスで伝えることで少しずつ理解することができる。 ・教員の言葉かけにより自分の意見を伝えることができる。友達と関わるのが好きで、相手の快不快に関わらず発言が多いため、見守りや言葉かけが必要である。
I	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：未実施 ハンドボール投げ：未実施 ・2人組の風船バレーパスでは、手の届く範囲に飛んできた風船は正確に返球することができる。足を2歩程度動かす範囲の風船も意欲的に触りに行くことができる。 ・活動内容やルールについて、示範や文字提示で伝えた上で、実践の中で繰り返し言葉かけすることで少しずつ理解することができる。 ・登校日数が少ない傾向があるが、授業に参加できたときは友達との関わりを楽しみに話し合いに参加したり明るい表情で活動したりすることができる。
J	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：34回 ハンドボール投げ：21m ・2人組の風船バレーパスでは、見え方の困難さから風船を見失うことがあるが、風船に注目できているときは正確に返球したり足を動かして触りに行ったりすることができる。 ・活動内容やルールについて、口頭指示で動くことができるが、示範や個別の詳しい説明があるとより理解が深まり、自信をもって活動することができる。 ・苦手な活動時に体調不良を訴えることがあるが、教員や友達との関わりを楽しみに意欲的に活動できる。話し合いでは友達の意見を聞いたり自分の意見を伝えたりできる。
K	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：25回 ハンドボール投げ：5.9m ・2人組の風船バレーパスでは、手の届く範囲に飛んできた風船を優しいタッチで返球することができる。控えめな動きではあるが、風船を落とさないよう足を動かして意欲的に触りに行くこともできる。 ・活動内容やルールについて、口頭指示で動くことができるが、示範や文字の提示があるとより自信をもって活動することができる。 ・学校で発声する様子は見られないが、自分の思いを指差しなどで伝えることができる。首をかしげたり頷いたりして、教員や友達の言葉かけに答えることができる。
L	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：34回 ハンドボール投げ：14m ・2人組の風船バレーパスでは、風船を落とさないように粘り強く追いかけたり、友達が居る方向を意識してパスを出したりすることができる。 ・活動内容やルールについて、示範や口答指示で大まかに理解することができる。活動から注意がそれることがあるが、教員や友達からの言葉かけを受けて活動に集中して取り組むことができる。 ・話し合いでは、テーマや選択肢が提示されていると、友達に意見を聞いたり自分の意見を伝えたりすることができる。

M	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：33回 ハンドボール投げ：14m ・2人組の風船バレーパスでは、風船の落下点を予測して動いたり相手の方向を意識して返球したりすることができる。 ・活動内容やルールについて、口答指示で動くことができるが、示範があるとより自信をもって取り組むことができる。自信をもって理解できているときには、友達に意欲的に教えることもできる。 ・体調により表情や意欲に偏りがあるが、友達を思いやった行動や発言が多く見られる。話し合いでは友達の意見を取り入れつつ、自分の意見も伝えることができる。
N	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：27回 ハンドボール投げ：8.8m ・怪我により体を動かす活動に制限がある。タオル体操やハンドグリップを使った筋力トレーニングなど、怪我をしている部位に負担の無い範囲で自主的に運動に取り組むことができる。 ・活動内容やルールについて、口答指示で動くことができる。示範があるとより自信をもって取り組むことができる。分からないことは自主的に質問をすることができる。 ・友達とのやりとりの中で口調が強くなることもあるが、自分から友達に言葉をかけて協力して準備や片付けに取り組むことができる。見学をしながら友達に戦術のアドバイスをすることもできる。
O	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：33回 ハンドボール投げ：6.4m ・2人組の風船バレーパスでは、正面に飛んできた風船を正面に返球したり、足を2歩以上動かして風船を追いかけてたりすることができる。 ・示範を見たり教員の個別の言葉かけを聞いたりして活動できるが、目的地に教員が立ったりルールを文字で提示したりするなどの視覚支援があると、より自信をもって活動できる。 ・友達の言葉かけに答える形で自分の意見を伝え、話し合いに参加することができる。振り返り場面では意欲的に友達への称賛の拍手をすることができる。
P	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：26回 ハンドボール投げ：9.7m ・2人組の風船バレーパスでは、風船に注目しているときは、積極的に手を伸ばして返球することができる。 ・活動内容やルールについて、示範で伝えた上で実践の中でも繰り返し正しい方法やルールを言葉かけや示範、身体的ガイダンスで伝えることで少しずつ理解することができる。 ・友達の言葉かけに答える形で自分の意見を伝え、話し合いに参加することができる。教員の言葉かけで友達の様子に注目し、応援したり拍手で称賛したりすることができる。
Q	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：17回 ハンドボール投げ：5.6m ・2人組の風船バレーパスでは、正面に飛んできた風船に手を伸ばし、返球することができる。直前に呼名されたり言葉かけを受けたりすることで、より風船に注目して返球することができる。 ・一斉指示だけで理解して動くことは難しいが、教員の個別の言葉かけや友達の様子を見るなどして集団参加をすることができる。 ・ゆっくりのペースであるが、友達の言葉かけに答える形で自分の意見を伝え、話し合いに参加することができる。教員の言葉かけで友達の様子に注目し、応援したり拍手で称賛したりすることができる。
R	【アセスメント】 【体力テスト】反復横跳び：31回 ハンドボール投げ：7.2m ・2人組の風船バレーパスにおいて、手の届く範囲に飛んできたときは相手を意識して返球することができる。風船に注目できているときは落とさないよう意識して意欲的に触りに行くことができる。 ・活動内容やルールについて、実践の中で言葉かけや示範、身体的ガイダンスで繰り返し伝えることで少しずつ理解することができる。 ・友達の言葉かけに答える形で自分の意見を伝え、話し合いに参加することができる。用具に注意が向くことがあるが、言葉かけを行うと活動に集中して取り組むことができる。

3 題材設定の理由

(1) 生徒観

本学習グループは、これまでの授業の中で体づくり運動を行い、ラダートレーニングやブラジル体操、変形ダッシュなどの体の動きを高める運動を中心に行ってきた。その中で、少しずつ手と足を協応させた動作がスムーズにできるようになったり、リズムに合わせた動きにより速いテンポで取り組むことができるようになったりしてきた。その一方で、体力テストのソフトボール投げでは、本学習グループの半数が 10m 未満の飛距離であった。投球フォームも利き手と同じ足を同時に出したたり、手だけで投げたりする生徒が多い。また、反復横跳びでは、足の動かし方を理解するのに時間を要する生徒や、繰り返し同じ動きをすることが難しく、動きが中断する生徒など、運動動作や調整に関する経験が不足している生徒が多いと考えられる。そのため、体の動きを高める運動を継続して取り入れつつ、球技や陸上競技など様々な運動経験をする必要があると考えた。また、本学習グループの生徒は昨年度の球技の題材で「ターゲットボッチャ」を学習しており、所定の位置から狙った場所へボールを転がす動作は経験している。次の段階として、投げる動作や自分自身が動いて返球する動作の習得へとステップアップさせていきたい。

集団活動においては、多くの生徒が教員の一言指示を聞き、授業内の目標を意識したり注意事項を守ったりして友達との活動や準備、片付けに取り組むことができている。しかし、友達と積極的に関わりをもつことや失敗や勝敗を受け入れることが苦手な生徒もいる。そこで、今回は「ふうせんバレー」を通して、まずは基本的なルールを知り、風船の返球動作やコントロールの仕方を身に付けたり、「できた」経験の積み重ねにより体を動かすことの面白さを体感したりしてほしい。また、友達とのやりとりや協力、称賛し合うことを通して、少しでも自分から友達に関わる機会や意識する機会を増やしたり、勝敗を受け入れる経験を重ねたりしてよりよい人間関係の構築に繋げていきたい。

(2) 題材観

特別支援学校中学部学習指導要領において、体育分野 1 段階の内容「E 球技」では「球技に進んで取り組み、きまりや簡単なルールを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をすること」と示されている。本題材では、パラスポーツ正式種目「ふうせんバレーボール」に関する基本的な動きや技能を身に付け、友達と協力しながら簡易化されたゲームに取り組むことで、友達と協力することや球技の楽しさや喜びに触れることに重点を置くこととする。

本題材は、パラスポーツ正式種目「ふうせんバレーボール」のチーム人数やルールを生徒の実態に合わせて一部変更して実施する。「ふうせんバレーボール」では「チーム全員がボールに触れてから相手コートにボールを返す」というルールがあり、本題材でも同様のルールを取り入れる。全員に活躍の場があり、パスやラリーを続けるために友達の動きを見て自分も一緒に動いたり、チーム内で風船に触る意思表示やパスを出す相手の名前を呼んだりするなど友達を意識し、思いやり、協力することが不可欠となるため、一緒に競技する楽しさを味わったり、状況判断や友達と協力する態度を身に付けたりすることをねらうことができる題材と考える。チーム人数は生徒の実態に応じて変更し、3人～4人1チームで編成する。風船は、大きくて柔らかいため、当たっても痛みを感じるものが少なく、生徒たちが積極的に風船に向かいやすいと考える。また、普通のバレーボールに比べて風船はゆっくりと動くため時間的余裕があり、ゲーム時の状況判断が比較的しやすく、生徒同士のパスがつながりやすい。パスやラリーが続くことは、本題材のねらいとしている球技の楽しさや喜びに触れることができる大切な場面だと考える。風船を返球する際には、適度な力加減と打つ方向といった調整力や、友達の言葉かけを聞いたり動きを見たりして次の動作を考える判断力が必要とされるので、これまでの題材で習得してきた運動技能を生かしつつ、さらに新しい運動動作や調整に関する経験を増やすことができると考える。破裂音が苦手な生徒への配慮として、必要に応じてイヤーマフや耳栓などの使用を推奨し、苦手意識や恐怖心を軽減できるよう環境調整を行う。

(3) 指導観

本学習グループの授業では、年間を通じてグリーンカード制度を取り入れている。グリーンカードとは、日本サッカー協会が 2004 年から導入した制度で、勝敗だけにこだわらずサッカーを楽しむことが大切という意味や、お互いが気持ち良くプレーできるようにするため、良い行動を広める目的や称賛を表す意味で使用されている。この制度を本学習グループでも取り入れることで、運動の得意不得意に関わらず称賛される機会を増やし、自分の感情や行動を統制する力、互いの良さを生かして協働する力、優しさや思いやりなどの人間性等の資質・能力の基礎を育成するきっかけの一つとなることを期待している。グリーンカードは 10 枚貯まると賞状が授与され、好きな体育的活動のリクエストができるという特典をつけ、生徒がより意欲的に取り組めるよう工夫している。

本題材の指導に当たっては、活動内容を視覚的に提示するとともに言葉かけやホイッスル、デジタイマーの活用などで活動の始めと終わりを明確にし、生徒一人一人が見通しをもって活動に取り組み、主体的に参加できるようにする。技能面では、友達と手を繋いで一つの風船を追いかけたり所定の範囲内で転がるボールを走って追いかけたりすることで足の動かし方やスピード感の習得、紅白玉を使用してサーブ練習をすることで手の角度や力を入れるタイミングをつかむなど、本題材を通して素早い動きや足の動かし方、手の角度や力の入れ方に関する運動動作や調整力の経験を積むことをねらいとしている。

作戦タイムでは、ホワイトボードと生徒の名前入りマグネットを使用してフォーメーションを生徒同士で相談できるようにする。必要に応じてポジションの役割や、メリットデメリットなどを伝え、フォーメーション決定のヒントになる言葉かけをする。また、チームとして何を目標にするかを選択肢の中から決定できるようにし、チーム一丸となって戦えるよう設定する。チーム力向上と運動量確保のため、作戦を立てることができたチームから円陣パスするよう言葉かけをする。

ゲームでは、作戦タイムで話し合った内容を実践できるように、教員が言葉かけや目標を意識できている行

動への称賛、グリーンカードでの即時評価などを行う。良いプレーや得点をした際に教員も一緒に喜んだり拍手をしたりして称賛することで、生徒間でも称賛しやすい雰囲気作りをする。必要に応じて手の角度や風船を触る位置、体の向きなど、基礎練習で習得してきた内容を意識できるような言葉かけをする。試合後は結果発表を審判が口頭で行い、その後あいさつ、拍手を全員でする。あいさつや拍手は、相手チームや審判チームへの感謝の気持ち、自分自身の頑張りや勝ったチームを称える意味を込めて全員で称賛し合える時間となるよう、事前に生徒へ説明をしておく。

振り返りでは、グリーンカードの振り返りとアンケートの振り返りを行う。グリーンカードの振り返りでは、授業の初めに3人の教員がグリーンカードを1枚ずつ携帯し、授業中、模範となる行動ができていた生徒、活躍した生徒、目標を意識して活動できていた生徒などグリーンカードの条件に該当する生徒にグリーンカードを手渡すようにする。教員が手渡す際には、良かった点を具体的に伝え、称賛する。振り返りの時間にグリーンカードを受け取った生徒は挙手、前に出るよう言葉かけをし、グリーンカードをもらうことができた理由を発表する機会を設定する。発表を通じて、グリーンカードをもらった生徒も、もらえなかった生徒も、互いに活動を振り返ったり考え直したり、新たな気づきを得たりする時間になることを期待している。アンケートの振り返りでは、アンケートアプリ「Forms」を活用する。本題材では、自分自身の「できた」経験に気づき、自信へと繋げてほしいため、個別のアンケート方式で振り返りに取り組む。アンケートに関するQRコードを印刷して掲示し、生徒は各自のiPadのコードスキャナー機能を用いてアンケートを読み込むようにする。アンケートは複数の選択肢から1つ選ぶ回答様式と、複数の選択肢から複数選択できる回答様式、設問に対して自由に入力する自由記述の回答様式を用いる。全員がアンケートへの回答後、結果の集計をTVに表示し、全体での振り返りへと繋げる。アンケートの質問項目に「今日のヒーロー」を尋ねる設問を用意し、振り返りで結果発表を行うことで、楽しさやわくわく感が得られる時間となるよう工夫する。最後に全員で拍手をして称賛することで、次時の学習意欲の向上に繋げる。

このような学習を通して、球技の楽しさや喜びに触れ、体を動かすことや友達と関わることの楽しさを味わうとともに、勝敗を受け入れたり、友だちと積極的に関わったりする経験を重ねることで、よりよい人間関係の構築に繋がることを期待している。また、本題材が楽しい経験となり、ふうせんバレーを「またやりたい」と周りの人に伝えたり「やってみよう」「観戦しよう」と思ったりするきっかけになり、将来の余暇活動の充実や生涯を通じてスポーツに親しむ態度の育成に繋がり、豊かな生活を送るきっかけになるよう願っている。

- 4 題材の目標
- ①「知識及び技能」

②「思考力、判断力、表現力等」

③「学びに向かう力、人間性等」
- 基本的なルールを理解し、主体的に動いたり習得した技をゲームで実践したりできる。(①)
 - 友達の言葉かけを聞いて動いたり友達の動きを見て自らの動きを考えたりして活動することができる。(②)
 - 友達と相談して作戦を立てたりチーム目標を決めたりすることができる。(②)
 - 友達と励まし合いながらゲームに取り組んだり、勝敗の結果を受け入れたり、友達の良いところを称賛したりすることができる。(③)

5 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
- 得点や失点になる条件を理解している。 - パス、アタック、サーブの違いを理解し、ゲームで実践している。	- 友達の言葉かけや動きに応じ、言葉をかけ合ったり自分の動きを考えたりしている。 - 友達と一緒に作戦やチーム目標を考えることができています。	- チームの得点を一緒に喜んだり友達の良いところを称賛しようとしていたりしている。 - 友達の発表や教員の振り返りの言葉を聞き、自分自身の活動を振り返ろうとしている。

6 指導計画（全 14 時間）

- 風船に慣れよう
 - チームでパスを続けよう
 - サーブを成功させよう
 - アタックで攻撃力を強化しよう
 - チーム対抗ふうせんバレー大会
- ・・・ 3 時間
 - ・・・ 3 時間
 - ・・・ 3 時間
 - ・・・ 2 時間
 - ・・・ 3 時間（本時 2／3）

7 本時の目標

- (1) 全体の目標
- サーブやアタックを打つ、パスを繋げるなどしてゲームに意欲的に参加することができる。(①)
 - パスをする友達の名前を呼んだり、友達の言葉かけや動きに応じて自ら動いたりすることができる。(②)
 - 教員の言葉かけをヒントに作戦やチーム目標を考え、実行することができる。(②)
 - 友達の言葉かけに応じて動いたり、友達の良いプレーや結果に拍手や称賛したりできる。(③)

(2) 個人の目標

生徒	個人の目標
A	- アタックを打ち、1点以上得点を入れることができる。(①) - 風船に触れていない友達の名前を呼んでパスをすることができる。(②)
B	- アタックを打ち、1点以上得点を入れることができる。(①) - 友達が良いプレーをしたときに自主的に称賛することができる。(③)

C	・アタックを打ち、1点以上得点を入れることができる。(①) ・風船に触れていない友達の名前を呼んでパスをすることができる。(②)
D	・自主的に風船を打ち、友達にパスをすることができる。(①) ・友達が良いプレーをしたときに自主的に称賛することができる。(③)
E	・アタックを打ち、1点以上得点を入れることができる。(①) ・友達が良いプレーをしたときに自主的に称賛することができる。(③)
F	・アタックを打ち、1点以上得点を入れることができる。(①) ・友達が良いプレーをしたときに自主的に称賛することができる。(③)
G	・自主的に風船を打ち、友達にパスをすることができる。(①) ・友達が良いプレーをしたときに自主的に称賛することができる。(③)
H	・自主的に風船を打ち、友達にパスをすることができる。(①) ・チームが得点したときに、拍手で称賛をすることができる。(③)
I	・自主的に風船を打ち、友達にパスをすることができる。(①) ・友だちが良いプレーをしたときに自主的に称賛することができる。(③)
J	・アタックを打ち、1点以上得点を入れることができる。(①) ・教員の言葉かけをヒントに作戦やチーム目標を考え、チームメイトに伝えることができる。(②)
K	・自主的に風船を打ち、友達にパスをすることができる。(①) ・チームが得点したときに、拍手で称賛をすることができる。(③)
L	・アタックを打ち、1点以上得点を入れることができる。(①) ・友達が良いプレーをしたときに自主的に称賛することができる。(③)
M	・アタックを打ち、1点以上得点を入れることができる。(①) ・教員の言葉かけをヒントに作戦やチーム目標を考え、チームメイトに伝えることができる。(②)
N	・友達のゲームや活動を見て、改善点やアドバイスを言葉で伝えることができる。(②) ・友達が良いプレーをしたときに自主的に称賛することができる。(③)
O	・自主的に風船を打ち、友達にパスをすることができる。(①) ・友達が良いプレーをしたときに自主的に称賛することができる。(③)
P	・自主的に風船を打ち、友達にパスをすることができる。(①) ・チームが得点したときに、チームメイトと一緒に所定のパフォーマンスをすることができる。(③)
Q	・友達の呼びかけに応じて風船を打ち、友達にパスをすることができる。(①) ・チームが得点したときに、チームメイトと一緒に所定のパフォーマンスをすることができる。(③)
R	・自主的に風船を打ち、友達にパスをすることができる。(①) ・チームが得点したときに、チームメイトと一緒に所定のパフォーマンスをすることができる。(③)

8 本時の展開

時間	学習活動	指導の手立て		評価規準	評価方法
		T1	T2・T3		
授業前	・コート設営をする。 ボールの準備 (ACJL) ネットの準備 (BFKM) ビブスの準備 (D) 得点板の準備 (E) タイマーの準備 (N) ・出席調べをする。	・ホワイトボードに役割を提示し、コート設営をするよう言葉かけをする。 ・コート設営が終わった生徒から整列するよう言葉かけをする。 ・整列の号令をかける。 ・学級毎に「欠席・見学者はいませんか？」と質問し、名簿に記入する。 ・全体を見渡し、生徒の表情や普段と変わった様子はないか、観察をする。	・(T2) コート設営を見守り、必要に応じて一緒に設営をする。 ・(T3) コート設営担当以外の生徒を体育館へ誘導し、整列の言葉かけをする。 ・(T2、T3) 整列するよう言葉かけをする。	・自分の役割を理解し、コート設営をすることができる。 (ABCDEFGHIJKLMN) ・号令を聞いて整列することができる。(全員)	観察
1分	1 始まりのあいさつをする。	・あいさつをする人を指名する。	・(T2、T3) 必要に応じて姿勢を正すよう言葉かけをする。	・姿勢を正し、号令に合わせてあいさつをすることができる。(全員)	観察
3分	2 本時の学習内容を確認する。	・ホワイトボードにスケジュールを提示し、活動内容と本時の目標を説明する。 ・T2、T3にグリーンカードを渡し、生徒にグリーンカードをもらえる行動をするよう言葉かけをする。	・(T2、T3) 説明に注目するよう必要に応じて言葉かけをする。 ・(T2、T3) T1からグリーンカードを受け取り、携帯する。	・説明を聞き、活動内容を知ることができる。(全員)	観察

4分	3 ラジオ体操をする。 ラジオ体操見本 (O)	・ Oに前に出るよう言葉かけをする。 ・ Nにタオル体操をするよう言葉かけをする。 ・ 本時のラジオ体操のポイント伝える。 ・ ラジオ体操の曲をかける。 ・ ポイントを意識してラジオ体操に取り組むことができる生徒を称賛する。	・ (T2、T3)必要に応じて体操の隊形を整える言葉かけをする。 ・ (T2、T3)ラジオ体操に意欲的に取り組むことができる生徒を称賛する。 ・ (T2、T3)全体を見ながらNの見守りも行い、必要に応じて言葉かけや称賛をする。	・ 号令に応じて体操の隊形に整列することができる。(O以外全員) ・ ポイントを意識してラジオ体操ができる。(全員) ・ タオル体操に取り組むことができる。(N)	観察
2分	4 追加の準備運動をする。	・ 風船バレーに必要な準備運動の示範をする。 ・ 風船バレーのどの動きで使用する部位か説明をしながら示範する。	・ (T2、T3)必要に応じて身体的ガイダンスや言葉かけをして正しい準備運動の仕方を伝える。	・ T1と同じ部位を動かしたり伸ばしたりすることができる。(全員)	観察
5分	5 5チームに分かれて作戦を考え、チーム練習(円陣パス)をする。	・ チームで作戦とチーム目標を考えるよう言葉かけをする。 ・ 各チームの作戦会議を見守り、必要に応じて作戦を考える上でのポイントを伝える。 ・ 作戦会議が終わったチームからビブスを着用し、円陣パスをするよう言葉かけをする。 ・ 円陣パスで友達の名前を呼んでいる生徒や、風船を意欲的に追いかけることができる生徒を称賛する。	・ (T3)ビブスを配る。 ・ (T2、T3)各チームの作戦会議を見守り、必要に応じて言葉かけをする。 ・ (T2、T3)作戦会議が終わったチームにビブスを着用して円陣パスをするよう言葉かけをする。	・ 友達と協力してフォーメーションや目標を考えることができる。(全員) ・ 教員の言葉かけをヒントに作戦やチーム目標を考え、チームメイトに伝えることができる。(JM)	観察
15分	6 チーム対抗戦をする。 ①(4分) 審判：緑 Aコート：赤 対 青 Bコート：黄 対 白 ②(4分) 審判：白 Aコート：黄 対 赤 Bコート：緑 対 青 ③(4分) 審判：青 Aコート：緑 対 黄 Bコート：白 対 赤	・ 試合をするチームには整列を、審判チームには所定の位置に移動するよう言葉かけをする。 ・ 審判チームを含め全員の準備が整ったか確認し、試合開始の言葉かけをする。 ・ Aコートの審判をする。 ・ 積極的に試合に参加できている生徒や、作戦を意識した動きができている生徒を称賛する。 ・ 得点をしたときは拍手や「ナイス」などの端的な言葉で称賛する。	・ (T2、T3)必要に応じて試合をするチームには整列を、審判チームには所定の位置に移動するよう言葉かけをする。 ・ (T2)Bコートの審判をする。 ・ (T3)審判チームの見守りを行い、必要に応じて言葉かけをする。 ・ (T2、T3)積極的に試合に参加できている生徒や、作戦を意識した動きができている生徒を称賛する。 ・ (T2、T3)得点をしたときに拍手などで称賛する。 ・ (T3)審判チームの生徒に友達が嬉しい気持ちになるような言葉をかけるよう必要に応じて言葉かけをする。	・ アタックを打ち、1点以上得点を入れることができる。(ABCEJLM) ・ 自主的に風船を打ち、友達にパスをすることができる。(DGHKOPR) ・ 友達の呼びかけに応じて風船を打ち、友達にパスをすることができる。(Q) ・ 友達のゲームや活動を見て、改善点やアドバイスを言葉で伝えることができる。(N) ・ 風船に触れていない友達の名前を呼んでパスをすることができる。(AC) ・ 友達が良いプレーをしたときに自主的に称賛することができる。(BDEFGILNO) ・ チームが得点したときに、拍手で称賛をすることができる。(HKPQR) ・ 友達の動きに注目	観察

				し、得点時に拍手を送ったりポジティブな言葉をかけたりすることができる。(審判チーム)	
4分	7 片付けをする。 ボールの片付け (ACJL) ネットの片付け (BFKM) ビブスの回収 (D) 得点板の片付け (E) タイマーの片付け (N)	- 片付けを促す言葉かけをする。 - 片付けが終わった人から振り返りのアンケートに取り組むよう言葉かけをする。	(T2、T3)各チームの片付けを見守り、必要に応じて言葉かけをする。	友達と協力して片付けをすることができる。(全員)	観察
5分	8 振り返りをする。	- TVの前に振り返りシートのQRコードを提示し、振り返りシートに入力するよう言葉かけをする。 - 振り返りシートの入力が終わった生徒から整列するよう言葉かけをする。 - グリーンカードをもらった生徒を尋ね、前に出るよう言葉かけをする。 - グリーンカードをもらうことができた理由を質問し、良い行動の振り返りや説明を行うとともに称賛をする。	(T2、T3)必要に応じてアンケート回答の見守りや言葉かけを行う。 (T2、T3)必要に応じてグリーンカードをもらった生徒に挙手をするよう促す言葉かけをする。 (T2、T3)必要に応じてT1に注目するよう言葉かけをする。	- 自分でiPadを操作し、振り返りシートの入力を行うことができる。(全員) - グリーンカードをもらうことができた理由を発表することができる。(グリーンカードをもらった生徒) - 拍手などで友達を称賛することができる。(全員) - 拍手などで友達を称賛することができる。(全員)	観察 振り返りシート
1分	9 終わりのあいさつをする。	- 次時の活動内容を伝える。 - 怪我の有無や体調確認を行う。 - 始まりのあいさつをした生徒に号令をかけるよう伝える。	(T2、T3)必要に応じて姿勢を正すよう言葉かけを行う。	姿勢を正し、号令に合わせてあいさつをすることができる。(全員)	観察

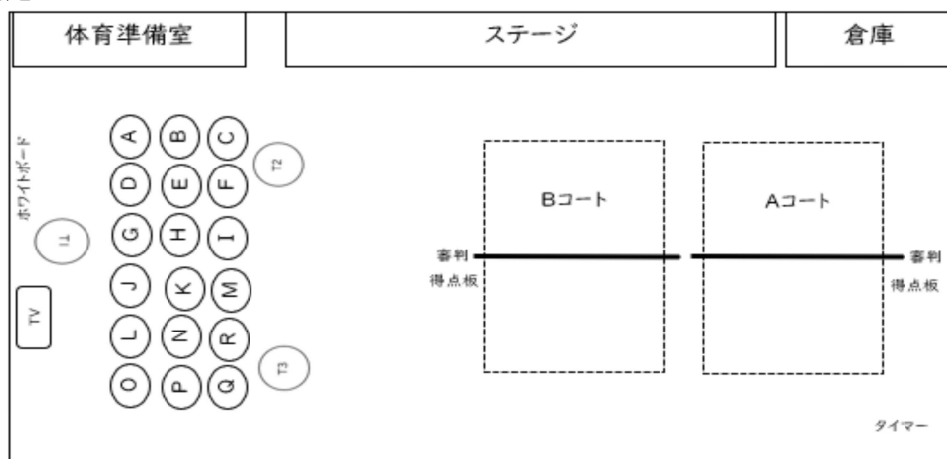
※1 太枠□はICT（1人1台端末）を活用した指導内容。

9 準備物

教材・用具	iPad、TV、デジタイマー、ホワイトボード、名前マグネット、グリーンカード、ボール、ネット、得点板、ビブス、風船、ホイッスル
-------	---

10 環境設定

【配置図】



【振り返りシート質問項目】

- ・今日の授業で一番がんばったのは何ですか？（選択肢から1つ回答）
- ・次のイラストの中で、得点になるのはどちらでしょうか？（選択肢から1つ回答）
- ・ふうせんバレーのゲームで得点できましたか？（はい！得点しました。 or いいえ。つぎこそは！！）
- ・チームの目標は達成できましたか？（できました or できませんでした）
- ・今日のヒーローは誰ですか？（選択肢、複数選択可）
- ・ヒーローを選んだ理由を教えてください。（自由記述）
- ・今日の体育は楽しかったですか？→☆☆☆☆☆